## 近体詩の構成

漢詩は、音の響きが命である。漢字がもつ形・音・意味のはたらきを存分にいかした文学の様式である。漢字のもつさまざまな抑揚を並べ、聞いて心地よい音の流れにした。その完成した形が**絶句**と**律詩**からなる、いわゆる**近体詩**である。絶句は、一首が四句からなり、一句が五文字からなるものを**五言絶句**、七文字からなるものを**七言絶句**と呼ぶ。律詩は、一首が八句からなり、一句が五文字からなるものを**五言律詩**、七文字からなるものを**七言律詩**と呼ぶ。それ以外の詩形は、便宜上**古体詩**（古詩）と呼ぶ。

漢詩の主な詩形は、次のようになる。

- **近体詩**
  - **絶句**
    - **五言絶句**＝一句が五字、四句からなる
    - **七言絶句**＝一句が七字、四句からなる
  - **律詩**
    - **五言律詩**＝一句が五字、八句からなる
    - **七言律詩**＝一句が七字、八句からなる
- **古体詩**
  - （近体詩以外の詩形）＝句数は不定、偶数句からなる
  - 楽府（本来、楽曲を伴った）＝句数は不定

絶句や律詩には、次の三つの約束がある。

1 字数が決まっていること。＝定型

2 偶数句の末尾に同じ響きをもつ韻字を置くこと。＝押韻

七言詩は、第一句にも押韻する。

3 一句の響きに音の抑揚（高低）があること。＝平仄

平仄は、訓読だけではわかりにくい。

次に、漢詩の構成を具体的に見てみよう。漢詩中の句は、五言の場合は二字＋三字、七言の場合は二字＋二字＋三字という構成となることが多い。

### 絶句

王維の「送元二使安西」は、七言絶句である。

渭城朝雨浥軽塵　起句＝歌い起こし（韻字＝塵）

客舎青青柳色新　承句＝場面を受け継ぐ（韻字＝新）

勧君更尽一杯酒　転句＝場面の転換

西出陽関無故人　結句＝詩を結び終える（韻字＝人）

## 律詩

杜甫の「春望」は、五言律詩である。

国破レテ山河在リ
城春ニシテ草木深シ
感レ時ニ花濺レ涙ヲ
恨レ別レヲ鳥驚レ心ヲ
烽火連ニ三月ニ
家書抵ニ万金ニ
白頭搔ケバ更ニ短カク
渾テ欲レ不レ勝ザレ簪ニ

首聯＝歌い起こし（韻字＝深）

頷聯＝場面を受け継ぐ（韻字＝心）
＊三句目と四句目で対句

頸聯＝場面・発想の転換（韻字＝金）
＊五句目と六句目で対句

尾聯＝詩を結び終える（韻字＝簪）

例えば、王維「送元二使安西」は七言詩であるので、「渭城＋朝雨＋浥軽塵」という構成となっており、杜甫「春望」は五言詩であるので、「国破＋山河在」という構成となっている。そのため漢詩を読解するうえでは、古くより〝二、三に読む〟ことが重要なポイントとされてきたのである。

漢詩は、二句でひとまとまりになる。律詩ではそのまとまりを「聯」と呼び、第一句と第二句を**首聯**（起聯）、第三句と第四句を**頷聯**（前聯）、第五句と第六句を**頸聯**（後聯）、第七句と第八句を**尾聯**（結聯）と呼ぶ。また、中間の頷聯と頸聯に**対句**を構成する必要がある。対句とは、並ぶ二つの句が、文法的かつ修辞的に対応するものをいい、言いたい事柄を多角的に捉える表現方法である。

近体詩の表現手法は日本にも伝わり、日本の文人もまた近体詩のルールに従って絶句や律詩を作った。日本人が唐代の詩を学ぶために用いた教科書的な選集に、『三体詩』や『唐詩選』がある。

『三体詩』は中世の禅林において盛んに読まれ始めて以来、近代に至るまで愛読された。中唐以降の詩人の作品を多く載せているため、盛唐を代表する詩人である李白・杜甫の詩は収録していない。一方、『唐詩選』は江戸時代中期以降に流行し、唐詩を学ぶための代表的な選集となったが、これは盛唐までの詩人が中心となっているため、中唐の白居易や晩唐の杜牧の詩を収めていないという特徴がある。